

令和3年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「一人一台端末を活用した学力向上を目指した授業実践について」

宮代町教育委員会

1 はじめに

本町は、今年度4月より一人一台情報端末 (Chromebook) が配備されており Google workspace for education のアプリを中心に学習活動を進めている。また、一昨年度から「みらいスクールステーションメディアボックス」を導入し、授業で使用する画像や資料を各教室に配備された50インチテレビ画面に提示することや、Web ブラウザでインターネットにつなぎ、動画などを視聴することができるようになっている。加えて、画面共有アプリを端末にインストールすることにより、教職員の使用する端末の表示画面を、メディアボックスを経由してテレビ画面に映すことができるようになっている。

今年度の取組の重点は、主体的に学習する態度を育成するために、ICT を積極的に活用し、基礎・基本の定着とともに、学力上位層への支援を充実させることとしている。そのために、宮代町教育委員会主催の ICT 研修会を中心に、各校の ICT 活用についての情報を共有することで、すべての教職員が PC 端末を効果的に活用し、個別最適な授業を展開できるように取り組んできた。

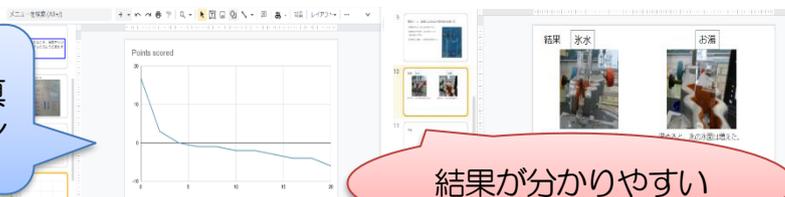
年度初めは、教職員が様々な場面で ICT を使用することで、実際どのような使い方があるのか、どのような教科のどのような場面で活用できるのかを体験をとおして理解するとともに、ICT への苦手意識をもつ教職員でも積極的に活用できるように努めた。

2 具体的な取組

子供たちが分かりやすい授業

使用アプリ：スライド

活用例：児童が個別に実験結果の写真を貼り付けたりグラフに表したりして考察する。



結果が分かりやすい

一人一人の能力や特性に応じた学び（「個別学習」）

個に応じる学習

使用アプリ：カメラ（PC端末を使って録画をする）

活用例：スピーチ練習時に自分の姿を録画する。その後再生して自分のスピーチを確認しながら次の練習につなげる。



使用アプリ：カメラ（事前に教師が作成した動画を見る）

活用例：家庭科の縫い方や玉どめのように、手元の細かい動きを前もって動画撮影しておき、自分のペースにあわせて確認しながら学習を進める。

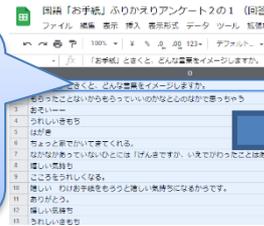
使用アプリ：QRコードリーダー（教科書のQRコードを読み取る）

活用例：英語の教科書のQRコードを活用し、英文を聞き、Listening と Reading の練習に役立てる。家庭科の教科書のQRコードを活用し、動画を視聴することで見通しをもたせる。

子供たち同士が教え合い学び合う協働的な学び（「協働学習」）

発表や話し合い

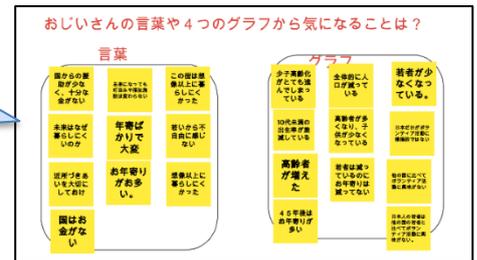
使用アプリ：フォーム・AIテキストマイニング
活用例：児童の感想をフォームで収集し、テキストマイニングすることで子供たちの関心の集まり具合を確認し、学習計画の作成に活用する。



使用アプリ：スライド
活用例：それぞれが興味を持った内容について情報端末を用いて調べ、その内容をグーグルスライドでまとめ、発表会につなげる。

協働での意見整理

使用アプリ：Jamboard
活用例：初発の感想やジグソー法を交えた話し合い等、意見交流を行う際に活用する。



まとめ・振り返り



学年: 小学2年 クラス: 1組 教科: 算数
 単元: 九九の ひょうと きまり

氏名	合計練習回数	基本	標準	応用
	3	2	1	0
	4	4	0	0
	3	2	1	0
	3	2	1	0

使用アプリ：ラインズeライブラリ
活用例：確認テストにて学習単元の理解を確認する。その後、自動個別課題により、一人一人の弱点に応じた問題を配付する。

使用アプリ：フォーム
活用例：小テストを作成し、理解度を確認する。

使用アプリ：タイピング練習ソフト
活用例：キーボー島アドベンチャー等のタイピングソフトを活用し、子供たちがスムーズに文字入力ができるようにする。

3 活用についての現状と課題

- 職員によって、技能の差が見られるので、活用場面に差がある。
- 高学年は情報端末を活用し、意見集約や発表資料の作成をしたり、発表をしたりしている。低学年は子供が操作に慣れていく必要がある。

4 おわりに

本町では、一人一台端末を様々な学年、教科で使用し、Google workspace for education のアプリをはじめ、児童の学びに寄り沿った効果的な活用について研究を進めたことで、以前よりも学習に対して意欲的に取り組む児童が多くなっている。また、考えの共有や個別の支援に役立てることで学力向上につなげることができている。一方で、活用していく中で情報モラル教育や端末とノート活用の棲み分け等、様々な課題も明らかになってきている。今後も、先進校の取組等を参考にしながら、一人一台端末のさらなる効果的な活用に向けた研究を進め、学力向上に努めていく。